



課題4-5 非常用持出袋の中身を考えよう

この中から非常用持出袋の中に5個入れられるとしたら何を持っていきますか？考えてみましょう。

持っていくものが決まったら「なぜそれを持っていくのか」を考えながら話し合ってみましょう。



着替え	毛布	カップめん	ラップフィルム	飲料水	紙皿
懐中電灯	カイロ	レインコート	タオル	レジャーシート	ラジオ
ビニール袋	軍手	ホイッスル	ライター	電池	携帯電話
マスク	カンパン	ろうそく	ライター	ヘルメット	常備薬
はさみ	紙コップ	くつ	お金	ばんそうこう	その他

◎指導のポイント

まずは生徒に「非常用持出袋の中身」と「非常用備蓄品」は違うということを理解させたい。非常用持出袋は、地震発生直後に持っていくものである。非常用備蓄品は避難所などでの生活を余儀なくされた時に必要なものを指す。この違いに着目して道具を選んでいくと次のように分けることができる。(下に記した分類はあくまでも一例であり、「地震が起きた直後に必要である物を非常用持出袋に入れる」という観点で考えられることが大切である。)

A…非常用持出袋に入れて持ち出すもの

飲料水・懐中電灯・レインコート・タオル・ティッシュペーパー・ラジオ・軍手・ホイッスル・電池・マスク・カンパン・常備薬・お金など

B…一時避難時に持ち出すもの(非常用備蓄品)

着替え・毛布・カップめん・ラップフィルム・飲料水・紙皿・カイロ・ビニール袋・レジャーシート・ろうそく・ライター・はさみ・紙コップ・ばんそうこうなど

C…袋には入れず持ち出すもの

携帯電話・ヘルメット・くつなど

さらに、Aに該当するもので、例えば水はどれくらい持っていくのか(一般的に1日一人3ℓ必要と言われるがそこまで袋には入れられない)、お金はどれくらい持っていくのか(公衆電話を使用することを考えると10円玉が必要になる)など、具体的にイメージさせることで、様々な問題点に気づき、生徒たちの考えは深まる。

各自が選んだものを実際に袋に詰めさせ、その大きさや重さを実感させることも有効な指導になる。

◎授業の流れ(グループ学習)

- ①各自で非常用持出袋の中身を考える。
- ②グループ内のメンバーで、各自が選んだ理由をもとに話し合う。
- ③話し合いの結果から、自分たちのグループの非常用持出袋の中身を発表する。

救援物資の量は限られている。ふだんから各家庭で非常用持出袋や非常用備蓄品の用意をすることが大切である。また、用意をするだけでなく、置き場所も考えておきたい。家の奥にしまっている場合は、家がつぶれ、取り出せない可能性がある。玄関に置くなどして、すぐに取り出せる工夫も必要である。避難所では、行政の支援が行われるまでの間、各家庭から持ち寄った非常用持出袋や非常用備蓄品を使って生活することになる。この授業を通じて、ふだんからの準備が必要であることを理解させたい。